

京丹後市学校再配置基本計画(素案)説明会

- 1 開催日時 平成 21 年 7 月 29 日（水）午後 7 時 30 分～午後 9 時 50 分
- 2 開催場所 京丹後市立吉野小学校体育館
- 3 出席者 中山市長、大下副市長、米田教育長、渡部企画総務部長、藤原財政部長、水野教育次長、石嶋市民協働課長、藤村企画政策課長、松梨市民局長、高橋教育理事、栗倉教育総務課長、増田学校教育課長、吉田文化財保護課長、秋山指導主事、横島文化財保護課長補佐、地元出席者 50 名

報 道 毎日新聞、京都新聞

4 内 容

- (1) あいさつ
- (2) 資料説明 ①京丹後市学校再配置基本計画（素案）
②京丹後市立学校施設の耐震化計画（素案）
- (3) 質疑応答

5 要 旨

市長あいさつ、京丹後市学校再配置基本計画（素案）説明、京丹後市立学校施設の耐震化計画（素案）説明 省略第一回目を参照。

質疑応答

(市民局長) これから質疑の時間に入りますので積極的な意見をお願いします。発言者は挙手のうえ、マイクを持っていきますので、その後発言をお願いします。

(出席者) 小・中・高の育友会に関わった縁で弥栄町内の 2 校の学校建築に携わった者です。一つはこの吉野小学校です。1 月から工事にかかり、完成したのは翌年度になり、黒部小学校と同じ年でした。私は吉野小学校は卒業していませんが、当時記念樹は卒業生の思いがこもった物だろうと、移転費用は少なかったが業者等の協力で松の木 1 本を除いて全部移転しました。ところが、孫の保護者会に参加した時、当時移された記念樹は一本だけという説明を学校はされました。もう一つは弥栄中学校の建設です。2 年前に中学校の校長先生から記念碑についての質問がありました。学校は地域の人々の思い出の場所です。その再配置の説明なのだからもっとわかりやすくしてもらいたい。舞鶴市ではとてもうまくいっている例を新聞で読んだ。そういうことを考えて欲しい。また、学校で最大の問題は先生の質だと思っている。先生が良くなければ子どもたちは伸びないと思う。教職員は医者と比べると研修期間が短い。先生の教育

をしっかりとすることが大切だと思う。

(市長) 学校は地域の活動の象徴であり、それとともに子どもたちが学ぶ教育の場でもあります。第1には教育の場としての学校のあり方を考えなければならぬと思っています。その中で地域との関係も合わせて考えていく必要があります。

(出席者) 今回の再編では弥栄町の小学校は2校にすべきだという考えを持つものです。その上で、質問をします。今夜、説明会をし、住民や保護者からたくさんの意見や要望が出ると思いますが、これらの意見は今後どのようなのでしょうか。司会から9時をメドにという言葉があったが、多くの参加者がいる中、お願いしたい事もたくさんあると思います。時間延長をして対応してもらえるのか、後日の対応になるのか、答弁をいただきたい。今回の説明会が形式的なものでなく、実りある会議にするためにぜひお聞かせ願いたい。

(市長) ありがとうございます。弥栄町の小学校を1校にという今回提示の案は2年間弥栄町の分科会で真剣に検討し、様々な観点を考えての結果である事を理解してもらいたいと思っています。また、こういう説明会は初めてなので、皆さんの意見を十分にお聞かせいただいて、気づいてなかった点や様々な思いを受け止める中で、どういう対応ができるかを考えていきたいと思っています。1校案が望ましいと考え、提示をしています。皆さんの意見を聞いて今後検討していきます。時間の制限については、私ももちろんこの会を実りあるものにしたいと思っていますので、9時というメドはありますがじっくりとご意見を伺いたいと思っています。

(教育長) 先生の質の問題が出ましたが、先生の質のどこを見て評価するのかは大変難しい問題です。授業を進める力、コミュニケーション能力など先生に求められている能力は多岐にわたります。私も教育委員会に6年いましたが、苦情も大変多く、時には保護者の方が無理難題をとというケースもあります。特にコミュニケーション能力はこれから必要だと考えています。先生も十分研修に励んでいます。校長や担任にはより一層研修に努めるよう改善していきます。また、弥栄で小学校2校をとという意見ですが、弥栄町で第1回目の分科会を持ったとき、基本説明をただけで、「学校統合の話なら、もう出席しない。」「何を基準に考えるのか。」「大変な場所に来てしまった」というそれぞれ感想をもらされた。それでも会議を重ねた後、座長が分科会で検討するのに4つのパターンをシュミレーションしました。①小学を現状通り継続する案、②吉野・溝谷・黒部・鳥取を一つに、野間を現状維持する2校案、③吉野・溝谷で1校、鳥取・黒部で1校、野間を現状維持する3校案、④吉野・溝谷で1校、鳥取・黒部・野間で1校の2校案の4つでした。平成25年までの児童数を根拠に様々

な検討をおこなった。それぞれメリット、デメリットを検討してもらいました。将来の児童の人数の減り方を考えたところ、平成 25 年に吉野小 82 人、溝谷小 53 人、鳥取小 84 人、黒部小 51 人、野間小 4 人となり、吉野小と溝谷小とそれ以外の 2 校案では吉野・溝谷統合校で 1 年が 19 人、2 年が 17 人、鳥取・黒部・野間小統合校でも 2 年が 15 人になることがわかった。20 人を基準に再配置計画を進めていること。1 校案なら全学年 2 クラスとなること。平成 27 年になると、2 校案はどちらも 10 人台のクラスが急増する。これでは、すぐに次の統合を考えなければならなくなるし、規模を考えても学校らしい学校にならない。というような流れになり、「現在の施設を使うならば 1 校統合は無理」「弥栄 1 校にするには増築が必要」「耐震補強をして 1 校にすればよい」「30 年後を見通すのは難しい。」「子どもが急激に減りすぎる」「2 校より 1 校の方が子どもに良い学習環境が整備できるのでは」というように意見が集約され、中間報告時には、児童数の推移を見ると 2 校にする必要はない。という 1 校案で報告をされました。それからなお検討を続ける中で、事務局が 1 校案は増築が必要であり、2 校案の検討を促しましたが、委員の方針は弥栄の児童数なら 1 校案でまとまるべきとの思いが強くなり、最終的には全員一致で 1 校案に決定したという経過があります。

(教育次長) 先ほどの舞鶴市の件は小中学校の連携事業だと思います。京丹後市としても参考にしたいと考えています。

(市民局長) 保護者の方も多くお見えです。何かご意見はありませんか。

(出席者) 小中一貫教育や幼保一元化については考えていないのか。

(教育長) 小中一貫教育は、一緒の建物にするだけでは無理で、小中学校はそれぞれ学習指導要領に基づいて教育がされているわけですが、特色あるカリキュラムを制定し、小中学一貫性が必要な理由をしっかりと示した上で運営されなければなりません。そのカリキュラムを申請し認められなければ行うことは出来ず、現状では弥栄ですぐに小中一貫教育が出来るような体制になっていません。研究の必要はあると思いますが、現状では非常に難しいと思っています。京丹後市でも丹後こども園が幼保一体化されています。幼稚園と保育所が同じ建物に入っていますが、その運営は幼稚園と保育所で別々に行われています。一元化になりますと、全く 1 つになる事であり、文部科学省と厚生労働省にその管轄が分かれていることから大変複雑な調整が必要になります。検討はしていますが現段階ではこちらも難しいと考えています。

(市民局長) 他の方で

(出席者) 本当に小学校は一校に統合すればよいと思っっているのですか。子ども目線、保護者の立場で考えた結果ですか。子どもの中でいじめがあった場合、

小学のいじめが中学へつながるのはこどもも保護者も大変つらいことです。吉野小は1学級20人以下の小規模校だが、上の学年の子が優しく手をさしのべてくれたお陰で、子どもも学校に行くことができました。小規模校にしかない思いやりや縦の関係という良さもあると思います。少ないと言っても17・18人です。先生も熱心に指導していただいていますし、子どもたちも十分競い合っています。子どもが少なくなるのは承知しています。1校にせず少なくとも川を挟んで1校ずつあってもよいではないですか。地域に見守られての登下校も小学生にとって大事なことです。小学校の間は地域で子どもを育てないと、親は働いています。学校が遠くなれば、近所の人にも急な用事を頼むことも出来ません。小規模校の良さをみなおして下さい。中学も75人で3クラス編成をして少人数で勉強をして、小学で不十分だった事もできるようになっています。大きな学校にして、先生も大勢の子どもを見て大変になります。小規模校でもよいと思います。

(教育長) お母さんの言われたとおり小規模校のよいところもたくさんあります。平成25年に2校案でも20人のクラスになります。しかし平成26年以降は、2校案でいくと10人代の学級が急増します。分科会の方も様々な角度から検討した結果、ある程度の子どもたちの集団は必要との観点で1校案になったものです。学校は確かに遠くなります。地域との距離は遠くなくても、地域で子どもを見守る気持ちは変わらないものだと思いますし、相談しながら魅力ある学校にしていかなければならないと思っています。また、いじめはお母さんがおっしゃったとおり大変なことです。これは学校の規模の大小にかかわらず起こる可能性があります。いじめは徹底的になくしていくという方針で対応していますが、保護者の耳に入らない。わからない。というような事の無いように、公民館に指導主事を配置するなど学校との連携を深めています。いじめについては絶対に許さない。という方針で指導していますので、もしあれば、教育委員会へ一報いただければすぐに対応させていただきます。

(出席者) 吉野小学校の卒業生です。1つ上の学年と下の学年が30人、私の学級は男女あわせて18人でした。それでも野球もしました。上下の学年と一緒に何でも出来ました。小さなところは上下関係が強まります。切磋琢磨という言葉が説明に使われましたが、協力という言葉は挙げていない。小さなところでは上下の協力が自然と育まれる。学習については、20人と10人のクラスなら10人の方がわかるに決まっている。小学生を教えた経験はないが、私の経験上少ない方がわかるに決まっている。数人でしゃべるなら気楽だが、大勢の前だと舌ももつれる。40人の前で意見を発表するには勇気もいるが、数人ならそうでもない。話し合うことを通して、理解も進む。1年中スポーツをするわ

けではないが、授業は毎日しなければならない。どう考えても小規模校の方が良い。

(教育長) 言われたことはもっともだと思います。現代の若い人や子どもを見ていて、精神的にひ弱だと感じます。ノイローゼになる大人も多い。どこが原因かと教育相談員に訪ねたことがあります。原因は社交性の無さ。コミュニケーション能力の不足。が考えられるそうです。ある程度まとまった集団の中で学校生活を送ることは、子どもたちの成長にとって必要なことだと思います。

(出席者) 検討分科会の委員はみんな自分の子どもを合併後の学校に入れるつもりで検討したのか。

(教育長) 分科会ではP T Aや地域の人が真剣に討議し中間では方向性だったが、最終的には全員一致で1校案にまとまった。

(出席者) 子どもの保護者の意見をということだが、分科会ではどのような立場で発言されたのか。

(教育長) 分科会では組織の役職としてではなく、個人の意見を素直に話してもらうため、個人として話してもらっています。自由に討議してもらうために会議も非公開にしました。

(出席者) 2校案に賛成のもの。検討委員の熱心な討議の中で迷った時期があったその時に区長を通してみんなの意見を聞けという指導はしなかったのか。地域住民の意見を聞く場がなかったから一方的になったのではないですか。

(教育長) こちらから皆さんの意見を聞けという指示はしていない。実際アンケートをした地区の情報などの交流は検討委員会ではしていたと思うが指導まではしていない。

(出席者) 私たちには今日の会議が初めて。住民の意見を聞く機会をたくさん設けて欲しい。そのような姿勢で大きな問題には臨むべきだ。子どものことは吉野小学校の先生が良く知っていると思うが、先生の意見を聞いたのか。

(教育長) こういう取り組みをしているということは、校長会に公表しているので、校長からある程度の説明をしていると思う。

(出席者) 先生の中で論議をしないといけないと思うが、報告しているのはわかった。大きな問題なのにP T Aの総会の議題にもなっていない。P T A会長が出ているなら、引継ぎがないのはおかしい。今のP T Aにも情報を提供して欲しい。2月の新聞報道で初めて知ってびっくりした。

(出席者) 二つ質問をしたい。①検討委員会で出された意見を議会にも出すのか。②通学支援は3km以上から行くと聞いたが、木津小が橘小になるとき2kmでスクールバスと聞いた。もし事実なら統一した距離にして欲しい。

(教育長) 議会へ提案するのは、先ほど説明した表の教育委員会の採択案が基

本となりますが、耐震診断の結果により見直す可能性もあります。通学支援の基準については、現段階では旧町の措置をそのまま踏襲しています。今回をきっかけに基準を設けるつもりです。

(教育次長) 現在、木津、柴古、箱石はスクールバスによる通学支援をしています。

(出席者) 何キロという基準はないのか。

(教育次長) 旧町の慣例を引き継いでいます。

(出席者) 2 kmですか。

(出席者) なぜこんな事がすぐに答えられないんだ。そのために裏に多くの人がいるんじゃないのか。

(出席者) もういいです。

(出席者) 5年生の保護者です。1歳と4歳の子どももいます。統合後の小学校に入学するわけですが、登校の安全がとても心配です。毎日教材を持って鳥取小学校まで歩いていくのは考えられません。途中の道がどれだけ危険か市長さんは歩いて確認しましたか。2 kmや3 kmという数字ではなく、ここの実情にあわせて通学支援をして欲しい。それと私は丹後出身ではないので、通学距離は集落の中心という意味がよくわかりません。地区ということでしょうか。

(市長) 歩いてはいませんが、おっしゃっていることはよくわかります。通学の安全は徒歩だろうが、バスだろうが当然の事だと思っています。どのような方法になるかはわかりませんが安全はしっかりと確保していきます。

(出席者) 緊急動議をしたいと思います。まだまだ多くの意見があると思いますので時間の延長をお願いします。

(出席者) 市長より時間にこだわらないとの発言があった。

(出席者) 年長の娘と3歳の子どもがいます。合併の時期に入学する親になります。PTAの話を聞いたといいますが、実際にPTAの代表は6年生の方がなる場合が多く自分の子どもが通わないので、真剣に討議されたのか疑問に思っています。私は2校でよいと思っています。鳥取小学校の増築に1億かかると聞きました。10年経てば1クラスになることも考えられます。現状を考えて今は2校にし、段階をおいて1校にする事も考えてもらいたいです。3 km以上はスクールバスの利用地区になるので関係ないのではという雰囲気も感じますが、細い道を子どもが通学するのは大変危険です。2 kmでも細い道を通学する子どもには支援を考えてもらいたいです。中学生は2 km以上で自転車通学をしています。小学生が3 km歩くのはとても大変です。特に雨の日に教材をもって歩くのは大変です。弥栄大橋をわたるのは大変だと思います。もう一度1校案が妥当かどうか考えて下さい。

(教育次長) 先ほどの橘小の件ですが、木津は 3 km未満でした。また塩江区もスクールバス対応をしていましたのでご報告申し上げます。

(出席者) 市長に伺いたい。教育長はもういいです。小学校を潰すと過疎化が進むので潰さない方がよいと思います。私は学校が無くなれば過疎化は進行するという問いに対して、再配置によってより広い地域が学校の校区になると考えてもらいたいと答えている。私は過疎化せよと言われているように感じる。「新しい学校づくり、地域づくり」を過疎化前提として地域を考えよと言われても、市長の思いではないように思いますが。住みにくく、住みたくなくなる。よけいに過疎化が進むと思いませんか

(市長) 過疎化と学校の関係ですが、学校が誰の何のための施設かを考えたときに、子どもたちが生活の大半を過ごす、人生の基礎作りに必要な学習の場だと思います。子どもたちの成長に必要な教育環境を考えるのが第 1 だと思います。しかし、同じように地域にとって学校は文化の象徴であり、大切な施設であるとも考えています。そういう意味では子どもたちの事を第 1 に考えながらも地域の活性化も同時に重なり合うように考えなければならぬと思っています。仮に再配置で学校が無くなった場合でも地域活性化につなげるための利用法がそれぞれの地区毎にあると思います。農業拠点として活用する方法もあるし、福祉施設あるいは公民館としての利用もあるでしょう。地域の活性化につなげる方法を話し合いながらしっかりと確立することが大事だと考えています。学校が無くなっても子どもたちが定期的に学習活動を行う拠点として今の学校を利用することも考えられます。まず地域の人々の考えを聞きながら、大変難しい問題ではありますが、地域の活性化が図れるよう利用法を考えていきたいと思っています。

(出席者) 市長に答弁をお願いしたい。私は 2 校がよいと考えている。弥栄町が地元ですが、仕事で市内を回るので私なりの考えでは、峰山・大宮は雇用の町、網野・久美浜は観光を目玉にしたまちづくりを進めていけばよいと思う。弥栄を考えると、働く場所に近いので住むまちではないかと考える。弥栄病院もある。吉野小学校区には堤に 54 世帯の府営住宅、24 世帯の市営住宅、芋野に 18 の市営住宅、18 の民間住宅がある。あわせて 110 世帯以上が住んでいることになる。単純に 3 人住んでいても 300 人強が住んでいる。吉野小学校の児童の半分以上が住宅の子どもたち。小学校が統合され鳥取小になると遠くなり保護者が負担に感じて引っ越してしまうかもしれない。そうなれば 1 集落分の人口が無くなることにもなりかねない。今の人口を維持するためにも小学校は必要。出生数等の数字のみで統合を行うのではなく、戦略を考え、前向きな施策をお願いしたい。森本工業団地や地域高規格道など攻めの施策を打ち、市内

から人を逃さず、住宅から人を逃さず、人を増やす、子どもを増やす施策を行政として考えて欲しい。大宮の学校も統合されると聞いたが、せっかくの攻めの施策と矛盾を感じ、戦略的にも疑問を感じている。弥栄町域の京丹後市における位置づけを是非聞かせて欲しい。

(市長) 京丹後市総合計画では弥栄地域は医療福祉ゾーンと位置づけ、住環境をしっかりと整備し、市の発展に貢献してもらうプランを立てている。それぞれの町の特徴を最大限に活かした街づくりをして、人口増につながるよう努力している。しかしながら、再配置計画の立案で具体的な数字を使って検討する際には、社会的な人口増加までを入れ込んではいない。出生数で考えると6年で弥栄町の小学生は100人減少していく。吉野小学校に限れば80人から上向くか急激な児童数の落ち込みはないが、弥栄全体でとらえた場合いくつかの案もシミュレーションして出た結果が1校案であり、京丹後市を担う子どもたちの成長をより良い教育環境で支援するために考えた結果であることを理解してもらいたい。

(出席者) 3年生の保護者です。保育所に2人通っており、小学校には合計12年お世話になります。子どもにとって一番いい環境と言われていますが、いじめの問題を知っていますか。3年生から5年生くらいになると大人数になると大変な問題になります。学校での様子が親にも伝わらなく、学校の先生が言ってくれなければ親は知りません。そこからいじめが発展します。学力も大切ですが子どもたちが楽しく安全に登校できる学校が一番です。学級の児童数が増えると先生も対処するのに時間もかかると思います。

(教育長) 子どもたちが楽しく安全に登校できる学校であることは一番重要なことです。いじめは先ほども言いましたとおり絶対許してはいけません。いじめた方もいじめられた方も親が知らなくては解決しません。いじめになれば、した方が悪いときちゃんと指導する必要があります。該当児童への対応、学級への対応、学校全体での対応とマニュアルを作り、指導を徹底しているつもりです。学校の取組みが親へきちんと伝わるのが一番大切な事だと思っています。もし、そうならないようなら是非実情を聞かせてもらい、今後の対応に活かしていきたいと思っています。

(出席者) 教育委員会で1校あるいは2校に統合した場合で想定している事があれば是非伺いたい。この案を提示するまでいろいろと意見を聞き検討を重ねたと思うが、教育委員会の考えを逆にこちらへ示してもらいたい。

(教育長) 鳥取小学校1校統合になった場合、教育委員会はどうな事を考えているか説明すればよいと言うことですか。

統合が決定した場合は、5つの学校の校長先生やPTAの話し合いを持ち、1

つの学校になったとき、どういう特色ある学校にしていくのかをしっかりと話し合っていきたい。教育委員会もその席について、一緒になって新しい学校のルールづくりに協力し、より良い教育環境で子どもたちが学習できるよう万全の体制を整えたい。物的な面よりもソフト面を中心に時間をかけて検討していきたい。

(出席者) 耐震補強の関係や安全安心と抽象的な言葉での説明ばかりだが、具体的な教育委員会の考えを聞きたい。例えば、地域活性化のためにどんな事をする予定か、皆さんの意見を聞くだけで無く、教育行政としてこの地域にあったこんな計画をしているというような具体例を聞かないと大多数が賛同できない。

(教育長) 今日の話し合いで賛同を得るところまで議論が深まるとは考えていません。教育委員会として統合した場合やしなかった場合の腹案はもちろんありますが、それは次回文章で説明をさせていただきます。

(出席者) 20人を基準にするなら宇川小の子ども的人数が本当に20人以上になっているのか。

宇川小 1年10 2年9 3年1? 4年15 5年20 6年15と5年だけ

島津小 1年10 2年14 3年8 4年15 5年14 6年21と6年だけ

吉野・溝谷 1年18 2年16 3年22 4年25 5年25 6年21

20人に満たないのは1年と2年だけ

基準に合っていない二つの学校は全市的には該当しない。1学級20人いないといけないのか。前後でもよいではないか。現場の先生が検討委員会にいれば融通が利いたはず。

(教育長) 20人を下回らない線を出したが、原則という言葉を使い、さらに複式学級を避けることとした。宇川は通学距離の関係もあり現在は継続としている。

(出席者) 私も宇川がいらないとは思っていない。宇川が存続可能だったら弥栄も2校にすればよい。財政の問題もある。1校案は総合的に考えた結果だと聞いているが、2校でも人数もほぼ基準に入り、増築もスクールバスも多く要らない。お金もいらぬし、校舎もそのまま使える2校案という柔軟な対応はできないのか。議会の中で市長は校区へ説明に出向き、今後の考えを真摯に検討していきたいと答えている。

(市長) 財政面ですが具体的な一定条件を出さないと詳細を出すことは難しいですが、全体の財政は厳しくとも教育は大切な事ですのでメリハリある予算を作り最大限の支出をしています。現実的な財政運営は必要であり、その中で子どもたちの成長や環境を第1に考えて検討してきた結果が1校案です。確かに

増築には費用を無くし、現状の1校に入る頃に統合すればよいという意見もわかりますが、2校でも1校でも必ず運営経費がかかります。1校なら増築費用の後は運営費1校分ですし、その倍の運営経費がかかる2校体制がどの程度続くかによってどちらが財政的に良いのかが変わります。単に増築費用だけの問題ではないのです。ある程度費用をかけても1校案を選んだのは小規模の良さを上回る20名以上の集団での教育効果であり、経費で示すことの出来ない価値もあります。そんなに単純なものではないことを理解していただければと思います。また、地域の人にお世話になった分科会の検討結果も尊重しながらの1校案を提示させていただいたつもりです。しかしながら、こういう場が今回初めてであり、意見は真摯に受け止めていかなければならないと思っていますし、我々の考え方も丁寧に説明して保護者、地域住民の理解を求めるのも必要だと考えています。

(出席者) 1校になった場合の財政面でのメリットを次回の説明会で具体的な数字を挙げて教えて欲しい。国からの教育費の補助も含めて全部教えて欲しい。今の学校の子どもたちも学校に本当によくしてもらっている。自転車通学を小学生にさせるのならいろいろな意見がある。

(教育長) 自転車通学についてもふれていますが、当然危険な場所があればさせるつもりはありません。自転車道の整備状況なども考えて判断したいと思います。危険な場合は原則スクールバス等の通学支援策をしていくつもりです。

(市民局長) 時間も遅くなって参りました。たくさんの方に意見をいただきありがとうございます。最後にこれだけというご意見があればお受けいたします。

(出席者) 先ほどお願いしましたが市長は雨の日に通学路を歩く予定はどうですか。先ほど1校案にはお金とはちがう価値があるというコマーシャルのような答えもありましたが、市長の言われる1校案と私たちが主張している2校案どちらかに挙手をとというと大変だと思います。しかし、1校案を不安に思っている方も大変多いと思いますので2校案に賛成の方の拍手をお願いしたいと思います。【会場より拍手】これだけの人が願っている2校案です。確かに慎重に検討されて出された1校案だと思いますがもう一度原点に戻って検討をお願いします。より子どものためという視点でよろしくをお願いします。

(市長) 雨の日に歩けるかどうかは別にして、子どもたちの安全を第一に考えながら、行政としてどこまで出来るかはわかりませんが、皆様からいただいた言葉を大切に検討していきたいと思います。1校案、2校案、それぞれメリット、デメリットがあります。分科会の意見も大切にしながら、吉野小学校以外の校区の思いもあります。2校案を考えておられる方も多くいることもわかり

ました。今日の意見をよく咀嚼しながら引き続き財政面も検討し、今後も相談
させていただきたいと思っています。

(市民局長)大変長時間にわたり、熱心なご意見ありがとうございました。